

創立108周年記念式典挙行

地の利に恵まれて



静寂の生命歯学部富士見ホールに大幣を祓う音が響き渡り、平成26年6月1日(日)午前10時30分より日本歯科大学108周年記念式典が厳かに執り行われた。

中原 泉 理事長・学長がホール壇上に設けられた神前に進み出て玉串を奉奠し、参列者を代表して学校法人理事の先生方、近藤勝洪校友会会長が緊張した面持ちでそれに続いた。

式典では中原理事長・学長が挨拶され、「先見の明がある先人のご尽力により本学は東京、新潟の土地の縁について運が強いこと、土地の利について」と述べられた。

次に近藤会長が「考証 中原市五郎史伝が間もなく発行されること、2年後の創立110周年事業、来年から創立記念式典特別参列制度〜ジュビリー 5025 〜について」述べるとともに、「これからも校友会が母校の発展に寄与できるように尽力を尽くす」と力強く挨拶された。

その後、特別非営利活動法人カラ=西アフリカ農村自立協会代表 村上一枝先生(54回)へ、その活動を称え第17号の名誉博士号授与式、永年勤続者表彰式が行われ、参列者全員で校歌を斉唱し本学の伝統と歴史の重さを感じながら式典は閉幕した。

校友会からのご挨拶
**SCRPを支援
していきます**



倉治康男
専務理事(62回)

校友会は学生の皆さんとの間に多くの接点を持つべく様々な活動をしています。新しいものではSCRP出場者への支援ということを昨年から行っています。

SCRP(Student Clinician Research Program)とは、ADA=アメリカ歯科医師会主催、デンツプライ社後援の事業です。現在は世界39の国々の歯科医師会主催で年一回開催され、学生が企画した歯学研究の成果を、英語による質疑応答、ポスター形式で競い合います。

その結果、各国の優勝者がADA総会で、研究発表ができるというシステムです。我が国でも、各歯科大学・歯学部から一名だけが、日本歯科医師会主催の国内発表に参加できます。ということは、本学からは生命歯学部、新潟生命歯学部と2名が参加可能ということになります。今年は過去最多の28名が参加しました。第5回は生命歯学部、第11回は新潟生命歯学部が優勝の栄誉に輝いています。また、第20回大会(今年)では新潟生命歯学部が20年連続出場で表彰されました。

校友会は、将来日本を代表して世界に名を轟かす研究者を本学から輩出すべく、その第一歩を支援するという考えでいます。興味を持たれた方はそれぞれの学部の学部長または教務部長の先生にご相談ください。

平成26年度

日本歯科大学歯学会大会・総会

6月7日(土)日本歯科大学生命歯学部において、平成26年度日本歯科大学歯学会大会・総会が行われました。今回はそのなかで学生の発表について簡単に紹介いたします。

「Krüppel-like factor4 遺伝子プロモーターメチル化の解析」

生命歯学部第3学年 山口あゆみさん他

「全身状態評価のための唾液マーカーの検索」

新潟生命歯学部第3学年 野沢南帆子さん他

「歯科学生における救急組成の啓蒙と普及に関する研究」

新潟生命歯学部第5学年 武内柚香里さん他

「新たに考案した歯肉血流測定法による

歯肉マッサージ効果の検討」

生命歯学部第6学年 和田祐季さん他

「音楽が臨床時におけるストレスに与える影響」

生命歯学部第6学年 石塚貴士さん他

「音波・超音波歯ブラシによるFLUID DYNAMIC ACTIONがプラーク除去に及ぼす影響」

生命歯学部第6学年 大山 豪さん他



説明する演者を見守る勝海歯学会会長

以上の6題を、学生達はしっかりと質疑応答も受けており将来楽しみな若手研究者達でした。

夏季球技大会 開催!!

夏季球技大会実行委員長 生命歯学部4年
大原ありさ



平成26年6月21日(土)、東小金井グラウンドにて、夏季球技大会が開催されました。当日は雨も予想されていましたが、天気にも恵まれ、すべての競技を行なうことができました。午前はキックベース、午後はPKとリレーを行いました。日頃の部活動で培った体力や団結力を思う存分に発揮し、白熱した戦いをみせていました。また、各部、学年を超えて交流を深める場となり、充実した球技大会となりました。キックベース優勝はラグビー部、2位野球部、3位アメリカンフットボール部。PK優勝はスノーボード部、2位アクアラング部、3位サッカー部。リレー優勝はラグビー部、2位サッカー部、3位野球部、という結果に終わりました。

また、私は球技大会実行委員長という大役を任せられましたが、普段こういった役職につくことがなかったため、球技大会を開催するにあたって準備の段階から不安でいっぱいでした。しかし、協力して下さったみなさまのおかげで、無事、球技大会を終えることができました。本当に感謝しております。ありがとうございました。また、参加された校友会の先生方、大変お疲れさまでした。



こうゆう先輩 第2回

マリ共和国の片田舎で 人々を支えるということ

特定非営利活動法人
カラ=西アフリカ農村
自立協会
代表
村上一枝 (54回)



近年、エボラ出血熱の発症で話題となっている、西アフリカ、マリ共和国の片田舎で1989年から「人々の健康と幸せな生活へ向けた自立構築」事業に関わって25年、現在に至るまでを振り返ってみました。

1989年8月に開業を辞めてマリに渡り、最初に生活したサハラ砂漠での1年間、その後2年半に及ぶ南部の農村での生活、そして、それまでの単独事業を踏襲して組織した日本支援団体として、マリ共和国から認可を得て日本人プロジェクトとして事業を重ね現在に至って

いる。

この25年間、アフリカ人と日本人との意識の違い、更に日本人の間での意識の違いに非常に悩まされ続けてきた。これは現在も変わることはない。

ボランティアとしての活動は、自由意思と自由な発想での事業が特徴ではあるが、現地の人たちの介在は、将来性が見えなく、日々四苦八苦し、喜びも悲しみも突然やって来るようであった。しかし、その時の状況に合わせ事業を継続して、今は社会的に評価されるに至った。

これまでを振り返ると、砂と空との間で生きているサハラ砂漠の人達、病気になってもその先にあるのは、治癒ではなく死であり、物を貰うのが当然という意識の人たち。そして、比較的雨量の多い(年間降雨量600mm前後)南部の村での援助慣れした人たちとの生活。支援側の人達がよく言う「援助の功罪」の「罪」の部分を多くの人や場所を通じて経験した。「援助貴族」と言う言葉もあるがこれも「罪」の一つである。

しかし、これを非難するのではなく、こう言われる原因の大部分はこちら側にあると考える。つまり、目の前に病気の人、食べる物に困っている人がいれば、何かを与えたい、してあげたいと思うのが人情ではある。しかし緊急の場合を除いて

は、それらは、与えると言う行為とその量に満足しているに過ぎないと思う。これらの経験が私の今の支援の方向性を作り上げた。

こんなことを考えて、私はあえて「援助」という言葉は使わない、「支援」という言葉を使っている。しかも村の人達が自ら負う努力を支援するのである。そして彼らの潜在意識と能力を引き出すのである。人々は物に囲まれず、情報が少なく、明るくなったら起きて暗くなったら寝る、という自然に逆らわない生活で、物がなくても寂しい顔の人を見ないし、子供が死んだ時には、いつか狂ったように泣き叫ぶが、それも神が連れて行ったと納得している人たちである。

しかし、少しの知恵と努力によって無駄な死を招けないよう、命を支える為に役立つことが、なすべき事と考えている。

そろそろ終焉を迎える年代にはいった私は、人の役に立つことが与えられた仕事と考えている。

マリ共和国における支援事業も、数で数える事業ではなく、数える事の出来ないことを残したいと考えている。

ホームページ：
<http://www.ongcara.org/about.html>

「スマイル ～歯をみせて笑おう～」

第43回浜浦祭

浜浦祭実行委員長 新潟生命歯学部4年
山下 萌



この度、6月14日(土)・15日(日)に開催いたしました第43回浜浦祭は、無事に閉祭を迎えることができました。浜浦祭開催にあたり、浜浦祭実行委員はじめ、体育会、文化会、学術会などの部活動を中心に多くの学生が協力し合い、当日を迎えることとなりました。開催期間中は天候に恵まれ、春の穏やかな明るい日差しの中、多くの学生がのびのびと活動することができました。屋外模擬店や屋内展示などに加え、屋外ステージでの参加型企画や、本学ならではの無料歯科相談といった多くの催しで賑わうこととなりました。

今年のテーマは「スマイル～歯をみせて笑おう～」と掲げました。このテーマは新潟生命歯学部ならではのテーマであり、人が人として生きる上で欠かすことのできない、喜びから生まれる笑いと、その笑みからこぼれる歯を大切にしようとの思いを込めました。今年の浜浦祭では、このテーマのとおり、大きな数々の笑みが生まれることとなりました。

最後になりましたが、浜浦祭を開催するにあたり、ご尽力、ご協力いただきました諸先生方ならびに校友会の皆様、関係者の方々には、この場をお借りし厚く御礼申し上げます。



平成25年度 校友会 スポーツ・文化・学術大賞

年間を通して顕著な功績を挙げた両学部の学生を表彰し、その功績をたたえることを目的として創設された、校友会スポーツ・文化・学術大賞に今年度は生命歯学部馬術部、新潟生命歯学部麻酔学グルンドが選ばれました。

平成26年4月29日(火)日本歯科大学合同合宿開会式のなかで、200名を超える参加者に見守られながら、藤井重壽校友会副会長から表彰状とお祝いが贈られました。



校友君 インフォメーション

愛媛県校友会主催 学生及び保護者様との懇親会のお知らせ

日時：平成26年12月29日(月) 18:30～
場所：なかしま 松山市3番町1丁目11-23
申込先：愛媛県校友会 宮田裕之(70回)
TEL 0895-72-0648 FAX 0895-72-1968



今号から校友会HPのQRコードを掲載することになりました。大学関連のHPともリンクしている校友会HPに気軽にアクセスして、様々な情報をゲットしてみてください。

校友会・学生会 特別講義

平成26年5月15日(木)午後6時 生命歯学部九段ホール

演題：「臨基応変(リンクイウヘン)」

～臨床—基礎—応用—変化・変革～

講師：茨城県校友会 上濱 正 先生(78回)

平成26年5月29日(木)午後6時30分 新潟生命歯学部アイヴィホール

演題：「歯科から発信する再生医療」

～抜去歯幹細胞による疾患治療と歯の再生～

講師：生命歯学部教授 中原 貴 先生(88回)



上濱 正 先生の特別講義を拝聴して

命に繋がる歯科医療という内容でした。寝たきりの老人が口腔リハビリテーションを受ける様子を映した映像の中で、ケアを重ねる度に明るく生気を取り戻していく老人、そして、「生きる」とはただ命を永らえるものではなく、「美味しい！嬉しい！楽しい！」と感じるものであるべきなのだという言葉に深く共感しました。

第一のアプローチとして、まず基礎と臨床の積み重ねが必要であること、口腔機能を正常にするためには正常な状態を知らなければならぬこと、それを積み重ねることによってより上質なCareやCureが可能になるということでした。これから先の歯科医療界は必ずしも明るいとは言えないでしょう。しかしそんな時代でも生き残る者はいます。その術を指し示しているのが先生の「臨基応変」なのです。私はこの言葉を「基礎と臨床の積み重ねをすることで、対応力、順応力、応用力が付き変化・変革に臨む力を得る」と理解しました。

最後に、これから臨床科目に入っていく私達に、基礎の大切さを再考させるこの素晴らしい機会を与えてくださった校友会、学生会の皆様方に厚く御礼申し上げます。

生命歯学部3年 大橋未来



中原 貴 先生の特別講義を拝聴して

本講演は、私の期待を高く超え、近い未来の歯科医療に希望を感じさせる内容でした。

歯冠から歯根、歯周組織、歯槽骨までが再生できること、また抜去歯由来幹細胞は骨髄幹細胞に比べ非常に増殖能が高く、多分化能も遜色ない。その上、染色体解析によれば全ての幹細胞が正常細胞であることからがん化の確率が低いなど、患者の立場から安心して受けられる医療であることが分かりました。

先生が開発したセルフィッシングという技法により、歯根膜細胞から骨格筋細胞の分離に成功、単核細胞が合体し多核細胞となり、自律性収縮を行っている様子の映像は、思わず目を奪われるものでした。骨芽細胞、神経細胞、脂肪細胞だけでなく、骨格筋細胞や肝細胞の誘導など、臨床応用されればあらゆる全身疾患の治療法が飛躍的に進歩するでしょう。

中原先生が仰っていた『臨床に生かすための研究』という言葉は強く心に残り、お話の仕方がとても面白く引き込まれるものでした。

新潟生命歯学部3年 横井康乃



両生命歯学部学生プレゼン in 栃木県校友会総会

平成26年6月29日(日)宇都宮ホテルニューイタヤにて栃木県日本歯科大学校友会定時総会の開催がされた。私達4年生4名(生命歯学部：土沢・平野、新潟生命歯学部：沖・田沼)も末席に加えていた。

学生の参加は特例だが、大川 新 栃木県日本歯科大学校友会会長の「在学生との繋がりを強く持ち、また新潟と東京を強く繋ぎたい」との思いの下、貴重な時間を共有させていただいた。大川会長のご挨拶の後、5月24日(土)開催の東京生命歯学部栃木県人会と、6月21日(土)

開催の新潟生命歯学部栃木県人会についての感想を頂戴した。この二つの会は私たち4年生が準備した学生主体の会であり、開催前から数々の失敗で冷や汗をかくことも涙することもあった。在校生と大学関係者、郷里の諸先輩方と、ほのぼのとした良い交流ができたとお褒めの言葉をいただき、苦勞が報われる思いであった。遠いところ足を運んでくださった皆様には深く感謝をし、不出来な私共のご無礼にはこの場をお借りしてお詫び申し上げます。

この定時総会で私達は東京校・新潟校それぞれのプレゼンを任せ

た。学校行事・授業・実習・富士見・浜浦フェスタ4学年ワークショップ等の概要説明とスライド上映を行った。大先輩の前に緊張の中、良い経験をさせていただいた。発表後、「魅力あふれる母校の今に触れられて良かった」「ぜひ子供達も生命歯学部に入学させたい」「安心してお任せできる」と嬉しい感想をいただいた。

その後、生命歯学部・高森教授によるインプラント治療の講義に移した。多くの質疑応答があり「歯科医師は一生勉強」を痛感させられた。

最後に、私達を陰ながらずっとサポートして下さった校友会の水沼秀樹先生に、深く御礼申し上げます。

生命歯学部4年 平野萌香



校友君インフォメーション

神奈川県人の皆様へ

神奈川県出身の学生のみなさん、同じ県出身の親睦のネットワークを作りませんか！

私は神奈川県校友会の新年会に参加して同県人の繋がりの大切さを知りました。その大切さは学生でも変わらないと思います。

下記のように県人会を企画開催しますので、奮ってご参加下さい。新潟生命歯学部の方も大歓迎です！

記

開催日時：11月9日(日) 18:00～

開催地・参加費：お知らせ用ホームページあるいはQRコードを参照

お知らせ用ホームページ：<http://kanagawakenzinkai.web.fc2.com/>

連絡先：gakusei.kanagawa.ndu@gmail.com

TEL 080-1112-9662 (生命歯学部4年 小沼 晃)

☆準備の関係上、必ず10月20日(月)までに欠出をお伝え

ください。尚、ご意見ご希望も受け付けます。

皆さんのご参加、心よりお待ちしております！



新潟生命歯学部4年沖君、田沼君



生命歯学部4年平野さん、土沢君

診療室での物語

カルテ No.7

マイクロスコープで ノンストレス 診療を！



東京都 水川歯科医院
水川 悟(85回)

“リーン、リーン” 医院の電話が鳴った！“はい〇〇歯科医院です。どうされましたか？” “はい、今通っている歯科医院で歯が割れているので抜こうと言われたのだけれど本当に抜かなくてはいけ

た。ネットの歯科相談の回答をしているのでこういったセカンドオピニオンの患者さんはよくいらっしゃる。来院していただいてお話を聞いてみると、今通っている歯科医院で歯が痛いので診てもらったら“歯が割れているから抜いてインプラントにしよう、だから40万かかる”ということだった。“本当に割れているのですか？ 本当に抜かなくてはいけないのですか？ インプラントしか治療方法はないのですか？”患者さんの頭の中は？？？ だらけである。それはそうだ、歯が痛くて歯科医院に行ったらいきなり割れている、インプラントで40万かかると言われれば誰でも不安になる。

そこで、まずはレントゲンを撮影する。ヒビ程度で大きく割れていないとレントゲンでの診断は難しい。やはり、確定診断がつかない。そこで、歯科用顕微鏡(マイクロスコープ)の登場だ！ 顕微鏡？？ と思われるかもしれないが、最近では医療系のTVドラマでも、マイクロス

コープを見ながらオペをしているシーンも増えてきているので見かける機会は増えている。歯科では今から20年程前にアメリカで導入され、日本では13年ほど前に開業医で使われ始めた。とは言っても、現在でも普及率は5%～8%とまだまだ少なく、しかも一つの医院で複数台持つ先生が多いので実際の普及率はかなり少ないのが現状だ。早速、マイクロスコープで明るい視野のもと大きく拡大して問題の歯を見てみると明らかなヒビが見つかった。すぐにマイクロスコープで見ていた映像を写真で撮り、42インチの大画面で見せると、患者さん御自身が“あー割れているんですね、抜かないとだめですね！”と納得された。まさに、“百聞は一見に如かず”。また、“嘔むと違和感があり、歯医者者を2、3軒行って毎回レントゲンを撮られたが何ともないと言われた、でも嘔むと痛いのでなんとかして欲しい”という患者さんがいらした。確かに、レントゲンを撮影しても問題

はなさそうだ。しかし、マイクロスコープでよく見てみると歯にヒビが入っているのが見つかった。前回と同様に写真を撮りモニターに映して説明をする。“それが原因だったのですね！ 安心しました！ 原因もわかったし本当は抜かなくてはならない事も歯を残す事リスクも理解しました。でも、抜く程痛くないのでしばらくこのままでもいいです”と言って歯を抜かずに帰られた。もし、これを抜いていたら、“歯医者で抜かれた”と無理矢理されたと思われることになりかねなかった。大きく拡大してみせてよく説明する事で〇〇されたといった事が減り“抜いていただいたのだけれど…”と言ってもらえるようになった。とにかく明るく拡大して見るだけでわかる事が非常に多くあり、それだけで我々歯科医師も患者さんもスッキリとする事がたくさんある。機会があればマイクロスコープをのぞいて見てみよう。歯科の治療が楽しくなる事請け合いだ。

校友の 歴史の重さ 手渡して 頼むぞ後輩 母校の未来 伝統を 守ってゆきます 我々も 富士見・浜浦 熱き心で